

北松竹の焼け跡に建つ教会 1954

はじめに

『新産業都市 仙台市大鑑』という仙台市の精密地図（住宅地図）が、東京オリンピック開催の年、1964年（昭和39）に出版されました。2023年（令和5）にその復刻版が発行されたのでさっそく買い求め、昔の我が家付近を眺めましたが、懐かしさがこみ上げてきました。勾当台通・北四番丁角から「岩淵菓子店」、「恵比寿染物」、「塚本商事」、「千葉歯科」そして「バプテスト教会」があり、「つつみ」（食堂・飲屋）、「佐々木歯科器械店」と続き次が我が家です。さらに並びには東洋機械KK、東北木材KKや角には佐万商店もありました。道路向かいには逸見法律事務所、高庄石材、斉藤医院、ヒロベ靴屋、高橋商店、そしてこの地図には出ていませんが石川写真館、佐伯花屋、白旗燃料店も忘れられません。

そんな昭和の街の顔は大きく変化しました。あの頃の場所はすっかりビル群に覆われ、公共の駐輪場、地下鉄の出入口、眼科専門の動物病院、マンション、銀行の事務センター、ドラッグストアやコンビニなどへと変身しました。昔ながらの場所で同じ働きをしているのは、私たちの教会と幼稚園くらいでしょうか。時間と共に町並やそこに住む人々は当然ですが変わっていきます。そのような時代の流れの中で、変わる事のない真理を伝え続けることが教会の使命なのでしょう。

1. 北松竹映画劇場の跡地に建つ教会

私たちの教会は、焼失した映画館の跡地に建てられました。そのことをご存じの方は多いでしょうが、映画館の名前までご存じの方は少ないでしょう。教会の二軒隣に生まれ育ったかく言う私も知りませんでした。教会の年表作りで古い週報をめくっていた時に、渡邊真人さんが書いた牧会通信（2003年6月1日）が目にとまり、その文章の中に映画館の名前を見つけました。「北松竹映画劇場」です。

そこでこの北松竹について調べてみると、いろいろ興味深いことが分かりました。収容人数1,000人程の比較的大きなこの映画劇場は、敗戦後6カ月の1946年（昭和21）1月25日に開館しています¹。1月23日付の河北新報の囲み広告には、「愈々25日開館 豪華絢爛披露番組」として、「豪華実演 松竹少女歌舞団一行 三日間公

演]、「歌と踊りのスペクタクルレヴュ映画 グランド・ショウ 1946年」とあり、三日間は実演と映画の二本立てで、なかなか華々しく開場した様子うかがえます。

北松竹の運営会社は東北興業です²。この会社は東北の開発促進を目的に制定された、「東北興業株式会社法」(1936年)³という法律に則って設立された会社です。当時の社長は伊澤平勝(東北の財界人と繋がりのある人物)、専務は松尾敬三(東北最大の的屋グループと繋がりのある人物)で、北松竹を開館した3カ月後には、南町に南松竹映画劇場も開設しています。しかし、1948年(昭和23)2月に南松竹が、8月には北松竹が火難を被り、北松竹は焼失後再建されることなく短命に幕を下ろしてしまいました。もし、北松竹が再建されていれば、私たちの教会はここには建っていなかったのでしょうか。

仙台空襲で町の中心部が焼け野原になり、敗戦で多くの人たちが意気消沈する中、庶民に娯楽を提供するために戦後半年足らずで新しい映画館を建設し、華々しく開館させるこのしたたかさ、生命力、行動力には、「すごいなあ」と感心させられます。東北興業は庶民が何を望み、何を求め、何を待っているかなどの心の機微や、時代の趨勢を敏感に感じ取る才に長けていたのです。勿論最も重点を置いたのはそろばん勘定なのでしょうが。

さて、北松竹の火災は不審火とのことです⁴。この業界特有の利害絡みの何らかの抗争が背後にあったことも考えられます。人々に喜びや安らぎや希望を与えてきた北松竹も、その背後には妬みや争いが複雑に絡んだ闇を抱えていたということなのでしょう。その同じ場所に私たちの教会が建っているのは、何かとても暗示的です。私たちの教会も光と闇が交錯するこの世のど真ん中に建てられています。つまり仙台教会がここに建っているという事実は、人々の様々な思いやどろどろしたこの世の現実としっかり向き合う中で、主から託されている聖なる使命を担いつつ歩まなければならないということを、いつも私たちに思い起こさせてくれているのです。

2. 武家屋敷街区に建つ教会

ついでに江戸時代まで時を遡ってみます。仙台教会は北四番丁北側に面し、勾当台通⁵と二日町の間に位置します。仙台城下では北番丁と東番丁は武家屋敷の街区でした。また、町屋敷の街区は奥州街道沿いに配置されましたが、教会近くの二日町や北鍛冶町のある通りがその奥州街道です。

町屋敷と武家屋敷の街区は、木戸によってはっきり区切られていました。仙台教会が建つこの一画の木戸の位置は、七十七銀行事務センタービルの西、「木町通二丁目バス停」辺りにありました。そしてこの一画には仙台北下が造られた当初、中流武士の屋敷が連なっていたことが古地図を見るとわかります。知行高によって敷地の規格は異なりますが、この地域は石高100~150石の武士の居住地区になっていましたので、敷地の規格は間口14間（約26.6m）、奥行き30間（約57m）ということになります。

私たちの教会は、町屋敷街区と武家屋敷街区を分ける木戸から東に4番目の武家屋敷の跡地に建っています⁶。古地図で調べると、そこは三百数十年前「志村長蔵」⁷の屋敷でした。その後しばらく時を経て「芳賀正左衛門」⁸、「相原兵衛」⁹の屋敷となり、幕末近くの地図では「相原石一」¹⁰の屋敷となっています。名前が書きこまれている古地図は他にもありますが、残念ながら判読できません。とにかく仙台教会が建つこの同じ場所を舞台に、幾人もの仙台藩士やその家族が、喜怒哀楽の渦巻く様々な人生を送ってきました。

今、同じ場所に集う私たちもまた、多様な人生を生きていることに変わりはありません。ただ、昔の住人と決定的に異なることがあります。それは、人生の導き手である主イエスを私たちは確かに知っている、という点に他なりません。そのお方の導きのもと、予期できない出来事が日々次々と押し寄せてくるそれぞれの人生を、私たちはなおも希望をもって歩むことが許されているのです。

（文責：小林孝男）

★ ★ ★ ★ ★ 愈々 25日開館

豪華絢爛 披露番組

松竹少女歌 舞踊團一行

三日間公演

★九民舞劇★ 松竹舞劇 ★

北松竹映畫劇場

河北新報朝刊 1946年（昭和21）1月23日（水）

1 資料(1982/00/00_仙台映画大全集) 453 頁。

論文:功刀俊洋「1946年の公選運動(3)」(福島大学行政社会学会、1996) 56 頁によれば、初の公選
仙台市長選挙の立会演説会場として北松竹映画館は利用されている(この論文では「北四番丁の松竹
映画館」とあるが、「北松竹映画館」の誤りと思われる)

2 資料(1982/00/00_仙台映画大全集) 454 頁

3 1936 年(昭和 11)5 月 26 日に成立した法律で 38 条からなる。

第1条 東北興行株式会社ハ東北地方ノ振興ヲ図ル為同地ニ於ケル殖産興業ヲ目的トスル株式会社ト
ス

第2条 東北興行株式会社ノ資本ハ三千万円トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

4 資料(1982/00/00_仙台映画大全集) 454 頁

5 江戸時代は定禅寺通を南端とし、北四番丁を北端とする短い道であった。狂歌師の花村勾当が住む
高台が勾当台と呼ばれ、その西側にある南北の道が勾当台通である。北十番丁まで道が延長された時
期を特定できなかったが、恐らく昭和初期であろう。なお延長路ができたため、やがて市電北仙台線が運
行されることになる。北仙台線の開通は 1937 年(昭和 12)。

6 武家屋敷や町屋敷の地割基準(間口と奥行)、各種古地図、計測ツール付きの国土地理院地図サイ
ト等を用い推測することが可能である。

7 『絵図・地図で見る仙台 第一輯』(1994)中の「仙台北城下絵図」 延宝・天和年間(1673～1684 年
頃)

8 同上「仙台北城下五釐掛絵図」 元禄年 4～5 年(1691～1692 年頃)

9 『絵図・地図で見る仙台 第二輯』(2005)中の「仙台北城下絵図」 宝暦・明和年間(1751～1772 年
頃)

10 『絵図・地図で見る仙台 第一輯』(1994)中の「安政補正改革仙府絵図」 安政 3～6 年(1856～
1859 年頃)